

VU (絶滅危惧Ⅱ類)

チョウ目 セセリチョウ科

カテゴリー判定基準：A-2

オガサワラセセリ

Parnara ogasawarensis Matsumura, 1906

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
R	NT	VU

日本固有種

小笠原諸島にのみ分布する日本固有種。父島では戦前の記録のみであるが、母島および母島属島では普通に見られるチョウであった。しかし、母島では、2000年代から急激に減少し、非常に個体数が少なくなっている。

Parnara ogasawarensis is endemic to Ogasawara Island. The butterfly inhabits the seashore grassland of *Miscanthus boninensis*. The butterfly was common on Haha-jima Island, but its population has been declining since 2000s. Although the cause of this decline is unclear, two factors are likely involved, the predation by invasive alien species, Green Anole (*Anolis carolinensis*) and vegetational change caused by invasive plant species.

基礎情報

■**形態** 小型。翅は地色が褐色で白い斑紋がある。イチモンジセセリなどに似るが白斑の特徴によって識別できる。

■**分布域** 小笠原諸島（父島・母島およびその属島（平島、向島、姉島、妹島、姪島））に分布する。小笠原諸島にのみ分布する日本固有種。

■**生息環境** 生息地は、海岸沿いに見られるオガサワラススキの群落で、ここで幼生期を過ごす。成虫になると内陸部でも見られるようになる。

■**生活史** 成虫は、多化性で年4~5回程度発生し、一年中成虫が確認できるが、冬季には成虫の個体数は少ない。食餌植物は、イネ科のオガサワラススキなど。

現在の生息状況

■**分布域の現況** 父島では、戦前に数例の記録があるのみであり、それ以降はまったく確認されておらず絶滅した可能性が高い。母島では1990年代以降確認個体数が少なくなっている。母島の属島では、比較的安定して生息している。

■**生息地の現況** 現在、規模の大きなオガサワ

ラススキの群落は少なくなっており、モクマオウやシマグワ、ギンネムなどの外来種によって、母島および属島のオガサワラススキ群落は減少しており、とくに母島で顕著である。また、母島では、オガサワラススキ群落でグリーンアノールが徘徊することが観察され、捕食による悪影響が懸念される。

存続を脅かす要因

オガサワラススキ群落の外来植物（モクマオウやシマグワ）による縮小（54）が母島および属島で見られる。しかし、この要因は母島での近年の個体数の大幅な減少を引き起こすほどの大きなものとは考えられず、オガサワラシジミ同様、グリーンアノールによる捕食が減少の要因と推測されるものの（52-3）、明らかではない。

保護対策の現状

とくになし。

特記事項

とくになし。

参考文献

小路嘉明・渡辺康之・板垣政人, 1986. 小笠原諸島蝶類生態調査報告（第8報）. Crude, 29: 6-19.

執筆者：中村康弘（日本チョウ類保全協会）